

商店街彩る巨大花絵

元町などで「インフィオラータ」

チューリップの花びらで絵や模様を描く「インフィオラータこうべ2019」が、中央区元町通1の元町穴門商店街で始まった。大型連休中は同区の北野坂（27～29日）と北区の北神戸田園スポーツ公園（27、28日）でも開かれる。

阪神・淡路大震災からの復興を目指して1997年から始まり、毎年続く。インフィオラータはイタリア語で「花を敷き詰める」を意味し、今年は赤や黄、白、紫など6色の花びらを使って

いる。商店主らでつくる実行委やボランティアは、朝からデザイン通りに花びらを敷き、商店街の路上に2畝×7畝の巨大アート作品を四つ作り上げた。人気キャラクターや神戸ポートタワーが描かれ、通行人は足を止めてカメラを向けていた。

同商店街の辰巳真一会長（62）は「鮮やかな作品で、商店街が活気づく」と喜んでいて。作品は21日夜まで展示する。

（伊田雄馬）

好天 山や街にぎわう

灘区の六甲山牧場であったヒツジの毛刈りショーでは、親子連れら約70人が見学。40頭が次々と毛を刈られる様子を楽しんだ。「冬物セーター」を脱いだヒツジたちは、涼しげに牧場内を走り回っていた。

毛が伸び続けるヒツジは、暑さで体力が落ちると病気につながるため、同牧場が毎年夏を迎える前に毛刈りを実施している。1頭からセーター2〜3枚分に当たる約3キロの羊毛がとれるという。

飼育員はヒツジが暴れないよう足で頭をはさんで固定し、手際よくバリカンで毛を刈っていった。近くのブースでは羊毛の汚れを取り除く作業や、毛糸を紡ぐ様子も公開。来場者は興味深そうに見学していた。

家族で訪れた大阪府豊中市の山口湊さん（7）はヒツジの毛を見て、「わたあめみたい」とぼつり。毛を刈り終わった姿に「スマートになったね」と笑顔だった。

（伊田雄馬）

「冬物」脱いで涼しげ 六甲山牧場でヒツジ毛刈り



ヒツジの毛をバリカンで刈る飼育員＝灘区六甲山町

NEXTに動画



チューリップの花びらで描かれた絵＝中央区元町通1